

事例

1200 人のマンモス校の工夫と幼小人事交流

— 東大阪市立成和小学校 —

1. 実践の概要

(1) 学校の様子

成和小学校は、東大阪市の北西部に位置する、39学級全校児童1200人を超える府内有数の大規模校だ。校区には、国指定の重要文化財である鴻池新田会所や古くからの町並みがある一方、学研都市線等の利便性によって住宅開発が進められた結果、新旧入り混じった地域の構成になっている。



(2) 成和まつり

午前9時、成和小学校の全校児童1200人が成和まつりの開会式のために運動場に集合した。一斉に整列すると端の子どもの顔が見えないほどになる。

開会式では、招待された成和幼稚園の年長児約50人が、かわいいハッピー姿になって「よさこいソーラン」を演じた。幼いながらもひたむきで力強い演技に小学生達は熱心に見入っていた。



開会式の後、高学年の子どもたちは自分の担当する教室へ、低中学年の子どもたちは高学年の準備する教室へと移動した。

成和幼稚園の年長児たちは、担任の教員と一緒に運動場のコーナーを回った。残念ながら時間の関係でたくさん回ることができなかったが、園児でもできそうな「コマ回し」や「一円玉落とし」「かんげた」などを楽しみ、成功すると小学生が作ったメダルをかけてもらって喜んでいました。

「成和まつり」は、児童会の役員と5・6年生の児童がこの日まで3回の「コーナー会議」を開き、準備を進めてきた。この日もコマのまわし方をやさしく教えたり、幼児ができたことを上手にほめたりする高学年らしい姿が随所で見られた。

また、成和小学校では、「成和まつり」の交流が成功するように、事前の幼小交流会も実施している。この幼小交流会も6クラス200人近くいる1年生と成和幼稚園50人の交流になるので、その内容や運営方法を工夫しながら取り組んでいる。

■ 事前交流会 ■

- 1年生によるダンス「ちびっこサンバ」
- 1年生と一緒に「もうじゅうがり」ゲームを楽しむ。
- 30メートル走

せまい幼稚園の園庭で思いっきり走るということが少ない幼稚園児にとっては、とても気持ちいい体験になった。



(3) 教員の連携

① 幼小人事交流の推進

東大阪市では平成16年度から幼小人事交流を実施しており、成和小学校から隣の成和幼稚園へ2年間、教員1人を異動配置している。



幼稚園にきた先生にインタビュー

幼稚園に来て思うこと

- 1年目は仕事の違いに慣れるまで大変だったが、2年間の成果として、幼稚園の「環境の構成」などの指導方法や子どもへの声のかけ方などを学んだ。
- 小学校の指導法が通じず、自分の指導法を見直すいい機会にもなった。今後はこのような貴重な人事交流の成果を、市全体に広めていく事が大切である。
- 5歳児を見ていて、この時期の子どもがこんなに色々できるとは思わなかった。1年生担任の頃を思い出し、「あの活動はもっと子どもたちだけでできたのでは。」「あれは簡単すぎた内容だった。」と感ずることがある。
- 特に、幼稚園で積み上げてきた力をそのまま新1年生として発揮できるように心がけたい。

② 盾津中学校区地域教育協議会での幼・小・中連携

盾津中学校区の5校園（盾津中、鴻池東小、成和小、弥栄小、成和幼）では、地域教育協議会の一組織として生徒指導連絡会を定期的にかけて子どもたちの様子を情報交換している。

その中で、幼稚園での丁寧な保護者対応が話題になった。幼稚園の教員は、毎日の子どもの送迎時に保護者と十分に話すことができる。保護者は、子どもが小学校に入学してこのような関係がなくなることにより、不安感が増す傾向がある。時間がかかるが「なるべく電話ではなく顔を見て話す」などを心がけ、保護者と心が通じ合えるまで丁寧に取り組む幼稚園の方法を小中学校でも取り入れる事が大切である、等の話し合いがなされた。



資料 「幼小連携・今後の課題」 —盾津中ブロック人権研修会で発表—

- ① 学びの連続性に視点を当て、幼小互いの教育について知る。
「接続期」を設定して実態に応じた教育課程を幼小協同で検討していく。
- ② 幼稚園・小学校共に連携担当者を校務分掌に位置づける。
- ③ 子ども理解について
保護者との連携を図りながら、子どもの長所を伸ばし、つまづきをサポートしていけるような幼小合同の体制作りが大切である。 ～「幼小の相互理解にむけて」より一部抜粋～

2. 連携のポイント

- 児童数が多く人間関係が希薄になりがちになる中で、子どもたちの縦のつながりを大事にする取組みの一環として幼小連携を大切にしている。
- 幼小人事交流や生徒指導連絡会などをうまく連携させながら、組織的・計画的に幼小連携に取り組んでいる。
- 幼小中の教員が子どもたちの育ちを確認しあう会議を設定している。その中で相互の立場を尊重し合いながら指導法の工夫改善に努めている。